二〇一九年一〇月一五日（参加者一二名）

小鳥来る巨卵のごとき力石　はく子
どんぐりの四五個が並ぶ遙拝所　はく子
秋声は神なる岩の裂目より　はく子
秋声や震禍の鳥居とて傾ぐ　はく子
木の実降る石の祠は山の神　菜々
水音に踏み入る小径草の花　菜々
神々を巡る境内木の実降る　菜々
甑岩へかざして一と枝櫨もみぢ　菜々
黄葉を帯びる宮居の力石　明日香
神さぶや甑岩へと秋陽差　明日香
雑木山しるき一樹は櫨紅葉　明日香
洗堰葛の緞帳潜りきて　うつぎ
不動明王睨む視線に女郎蜘蛛　うつぎ
身に入むや神の岩にも楔痕　うつぎ
極彩の腹天に向け女郎蜘蛛　せいじ
木洩れ日のつつむ磐座秋気満つ　せいじ
群がりし子らにたじろぐ子かまきり　せいじ
薄紅葉風の通りの良き処　たか子
山荘の小径明るき石蕗の花　たか子
秋さぶや茶室へ辿る苔の径　ぽんこ
曲水にお尻とんとん赤とんぼ　ぽんこ
中腹に魁と見し紅葉かな　わかば
走入根の階なせる木の実径　わかば
残念石楔の跡に落葉積積む　小袖
対岸の蘆火の揺らぐ水面かな　素秀
秋思かな持ち上げ禁と力石　よう子

定例句会みのる選

二〇一九年一〇月一五日（参加者一二名）